

Contents & History

538 仏教が日本に伝わる	734 ^(a) 杉本寺(すぎもとでら)	05
710 平城京に都を通す	736 ^(a) 長谷寺(はせでら)	06
	御雷神社(ごりょうじんじゃ)	06
794 平安京に都を通す	1104 荏柄天神社(えがらてんじんしゃ)	09
1180 源頼朝が鎌倉に入る	1180 鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)	10
	1182 若宮大路(わかみやおおじ)	10
	1185 小動神社(こゆるぎじんじゃ)	11
1185 頼朝が全国に守護・地頭をおく 壇ノ浦の戦い(平氏の滅亡)	1185 銭洗井財天宇賀福神社(ぜにあらいべんぎいてんうがふくじんじゃ)	11
1189 頼朝が奥州で源義経を討つ	1188 浄妙寺(じょうみょうじ)	11
	1189 法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓) <small>(ほっけどうあと(みなもとのよりとものはか・ほうじょうよしときのはか))</small>	12
1192 頼朝が征夷大将軍となる	1192 永福寺跡(ようふくじあと)	13
1199 頼朝が53歳で亡くなる	1200 寿福寺(じゅふくじ)	13

「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

鎌倉という土地の歴史の始まりは、はるか遠く旧石器時代にまで遡ります。独自の美意識や文化を色濃くしていったのは、源頼朝によって武家政権が誕生した鎌倉時代。その後、江戸時代には江戸庶民が社寺を訪れるようになり、明治時代の文明開化を経て、近代には文士たちが集う文壇の中心地としてのイメージを根付かせていきました。今、鎌倉の地図には、さまざま

な時代を象徴する史跡や社寺が、モザイクのパーツのようにちりばめられています。これらをひとつの「点」としてではなく、歴史という連続した「面」から眺めてみると、幾重にも層をなすこの土地の時間の厚みを感じ取ることができます。本書は、日本遺産として登録された有形・無形の文化資産を紹介し、ここに記したさまざまなエピソードに触れるうち、時を超えて物語の中へと入り込むような、立体的な体験を味わうことができるでしょう。

1203 源実朝が3代将軍となる	1219 成就院(じょうじゅいん)	14
1219 実朝が暗殺され、源氏将軍が3代で絶え 藤原三実(頼経)が鎌倉殿になる	1235 明王院(みょう おういん)	14
	1241 朝夷奈切通(あさ いなきりどおし)	15
1221 承久の乱に勝利した幕府が権力を確立する	1243 光明寺(こうみょうじ)	15
1232 北条泰時が御成敗式目を制定する	1251 浄光明寺(じょうこうみょう じ)	17
	1252 鎌倉大仏(綱造阿弥陀如来 坐像) <small>(かまくらだいはつづくどうぞうあみだによらいざぞう)</small>	19
	1253 建長寺(けんちょうじ)	19
	1253 安国論寺(あんこくろんじ)	17
	1259 極楽寺(ごくらくじ)	18
1274 文永の役(元寇)	1260 妙本寺(みょうほんじ)	18
1281 弘安の役(元寇)	1281 浄智寺(じょうちじ)	21
	1282 円覚寺(えんがくじ)	20

QRコードでMapを見る

日本遺産に登録された「構成文化財」を時代ごとに紹介します。
各ページにあるQRコードを読み取るとMapが開き、
あなたを目的地まで誘導。まさに時空を歩くガイドブックです。



	1285	東慶寺(とうけいじ)	21
	1296	覚園寺(かくおんじ)	22
	1327	瑞泉寺(ずいせんじ)	22
	1333	大町釈迦堂口遺跡(おおまちしゃかどうぐちいせき)	22
	1334	報国寺(ほうこくじ)	23
	1336	宝戒寺(ほうかいじ)	23
1338 足利尊氏、征夷大将軍となる	1380	明月院(めいげついん)	26
1349 鎌倉公方、関東支配	1436	本覚寺(ほんがくじ)	26
1600 関ヶ原の戦い	1636	英勝寺(えいしょうじ)	28
1853 ペリー来航	1869	鎌倉宮(かまくらぐう)	29
1867 大政奉還			
1868 江戸城開城・明治維新			

鎌倉の「日本遺産」

「日本遺産」とは、日本各地に存在する有形・無形の文化財を、その地域の歴史的なストーリーにからめて認知を広めるべく、2015(平成27)年度より文化庁がスタートさせた認定制度。鎌倉市は、歴史的遺産と自然、文化とが調和したまちとして、2016(平成28)年度にこの認定を受けました。鶴岡八幡宮をはじめ、歴史のある神社仏閣を多く残す古都鎌倉のノスタルジックな

雰囲気の中に、時代々々に刻まれてきた建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事などがモザイク画のように組み合わせられています。今の鎌倉が織りなすまちの情景とともに、その一つひとつのストーリーをたどると、「日本遺産」と呼ぶにふさわしい奥行きのある豊かな表情が浮かび上がります。

1887 日本初のサナトリウム「海濱院」ができる	1908	長谷子ど も会館(旧諸戸邸)(はせこどもかいかん(きゅうもるとてい))	31
1889 横須賀線開通	1916	古我邸(こが てい)	31
1914 第一次世界大戦	1926	石川邸(旧里見 弐邸)(いしかわてい(きゅうさとみとんてい))	32
1923 関東大震災	1927	三河屋本店(みかわや ほんでん)	33
	1928	旧川喜多邸別邸(旧和 辻邸)(きゅうかわきたていべつてい(きゅうわつじてい))	34
	1929	旧華頂宮邸(きゅうかちょうの みやてい)	34
	1929	扇湖山荘(せんこさんそう)	35
1934 第1回鎌倉カーニバル開催	1936	鎌倉文学館(旧前田家鎌倉別邸)(かまくらぶんがくかん(きゅうまえだけかまくらべつてい))	36
1939 第二次世界大戦	1936	湯浅物産館(ゆあさぶっさんかん)	37
1945 貸本屋 鎌倉文庫開店	1938	ぼんぼり(雪洞)祭(ぼんぼりまつり)	38
1946 鎌倉アカデミア開校	1962	吉屋信子記念館(よしやのぶこきねんかん)	39
1964 御谷騒動	1969	榎亭(えんてい)	40
1966 古都保存法制定			

～平安時代

幕府ができる前の鎌倉って、どんなところ？

鎌倉という地名が記された最も古い文献は、8世紀初めにできた『古事記』。それ以前にも人が住んでいて、鎌倉郡の役所もありました。8世紀後半以降にできた日本最古の和歌集『万葉集』には、鎌倉の地名を詠みこんだ歌が3首載っています。

実は、源氏と鎌倉の関係は平安時代に始まっています。源頼朝の5代前にあたる源頼義は、父の頼信とともに1031(長元4)年に房総半島で平忠常の乱を鎮めました。その前に乱を抑えられなかった平直方は、頼義の力を認めて婿に迎え、鎌倉の屋敷を譲ったといいます。頼義は陸奥守に任命され、その子・義家は武家の棟梁として、坂東武者の信頼を集めました。頼朝の父、義朝は義家のひ孫にあたりますが、寿福寺の辺りに館を構えていたとされます。低山に囲まれた海辺のまち——今も変わらない地形に、鎌倉時代以前の鎌倉が残っています。

734(天平6)年(伝)

すぎもとでら
杉本寺 開基/光明皇后 開山/行基

いにしえを思わせる
茅葺きの本堂と静かな境内

鎌倉で最も古い寺で、鎌倉幕府が開かれる約450年前に建てられました。本堂の屋根は茅葺きです。3体ある本尊はいずれも十一面観音菩薩で、そのうち2体は国指定の重要文化財。本堂に上がり、間近に拝見することができます。鎌倉時代の火災のとき、3体の観音菩薩が自ら大杉の下で火を避けたので「杉の本の観音」と呼ばれたといいます。坂東三十三観音霊場の第一番札所でもあります。



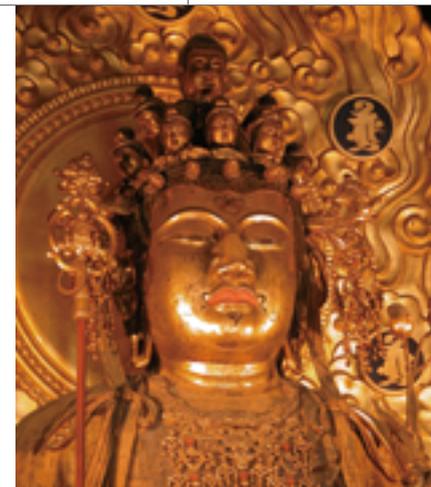
苔むしてすり減った石段に、長い歴史を感じる

736(天平8)年(伝)

はせでら
長谷寺 開基/藤原房前 開山/徳道

昔の旅人も見た、
鎌倉の絶景を一望に

季節の花や仏像など、見どころの多い寺ですが、必見は見晴台からの眺め。鎌倉のまちと海が一望のもとに見渡せます。本尊の十一面観音菩薩は、奈良の長谷寺の像と同じクスノキから彫られたといわれ、9m以上ある像高は日本最大級。併設の観音ミュージアムには、かつて大観音の前に祀られていた十一面観音菩薩立像など貴重な文化財が展示されています。アジサイや紅葉の時期も大人気です。



本尊は、身の丈9mを越す十一面観音菩薩



かわばたやすなり
川端康成

1899(明治32)年～1972(昭和47)年
ノーベル文学賞を受賞した小説家

家・川端康成は、鎌倉に長く住み、鎌倉文庫、鎌倉ペンクラブにも尽力しました。小説『山の音』に、長谷の情景を描いています。(鎌倉のいわゆる谷の奥で、波が聞える夜もあるから、信吾は海の音かと疑ったが、やはり山の音だった。)(『山の音』川端康成)



ごりょうじんじゃ 御霊神社

森や古い木とともに御霊が鎮まる古社

江ノ電の踏切のすぐ脇に御霊神社の鳥居が立っています。平安時代の武士・鎌倉景正を祀る古い神社です。当初は関東平氏の先祖の霊を祀っていましたが、武勇が名高い景正を祀ることになりました。景正は、鎌倉武士団を率いて湘南地方を開拓した領主でもあります。9月の例祭には、古い面をつけて練り歩く面掛行列や鎌倉神楽が行われます。



雌雄並んだイチョウの大木があり、黄葉が見事